

地方人口ビジョン【2060年までを基本】

1. 人口の現状分析

ア 人口動向分析

(総人口や年齢3区分別人口、出生数、死亡数、転入数、転出数等の時系列の状況を分析)

イ 将来人口の推計と分析

(出生率や移動率などについて仮定値を変えた総人口推計の比較や将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析)

ウ 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

報告

検討

2. 人口の将来展望

ア 将来展望に必要な調査・分析

(住民の結婚・出産・子育てや移住に関する意識・希望等)

イ 目指すべき将来の方向

(目指すべき将来の方向性や住民の希望を実現するための基本的な施策の方向性)

ウ 人口の将来展望

自然増減

(希望出生率などに基づく出生率等)



社会増減

(移住希望などに基づく移動率等)

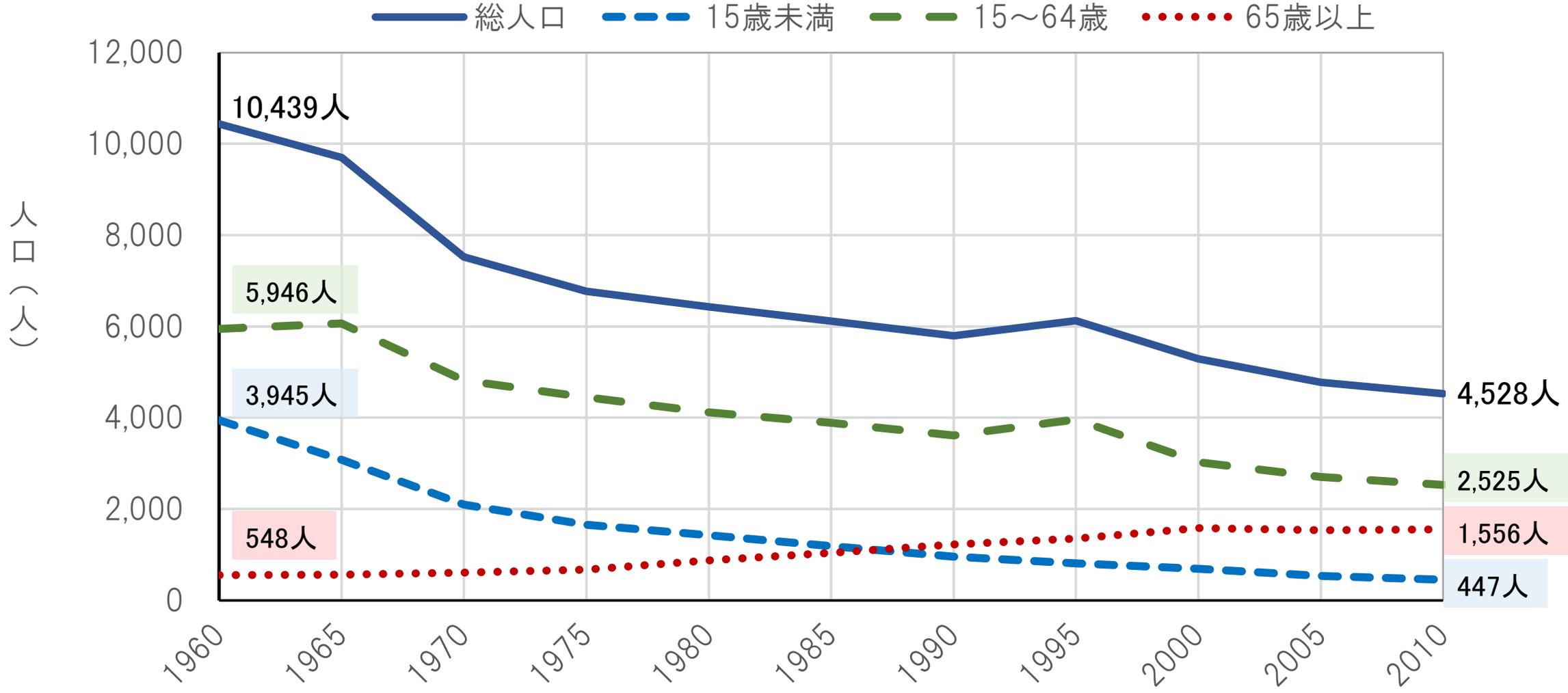
総人口や年齢3区分別人口等の将来を展望

## (1) 人口の現状分析

# 人口の推移

- この50年で人口が4割に
- 高齢者のみ人口増加

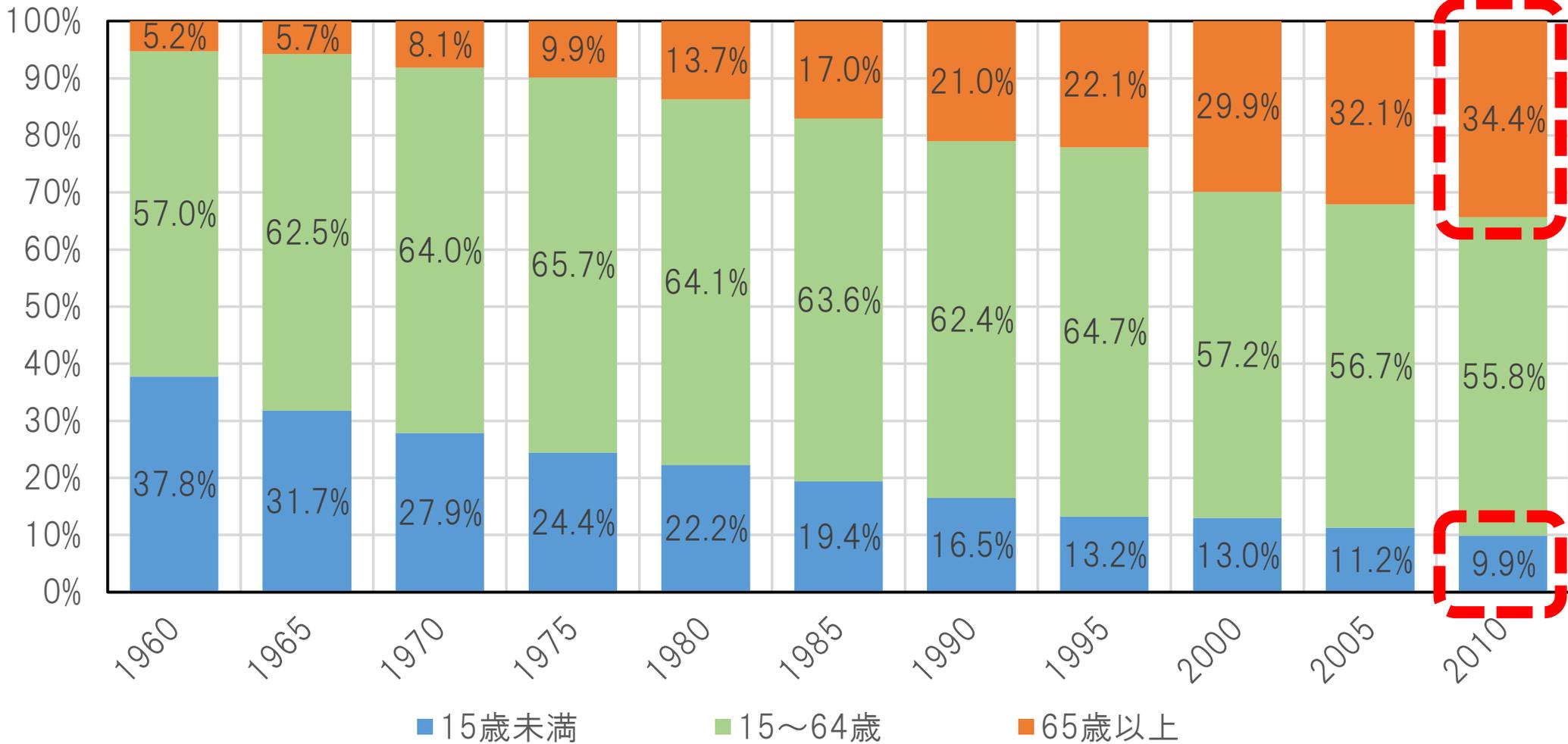
総人口・年齢3区分別人口の推移



# 人口の推移

- 高齢者率が3人に1人
- 一方、子どもは10人に1人に

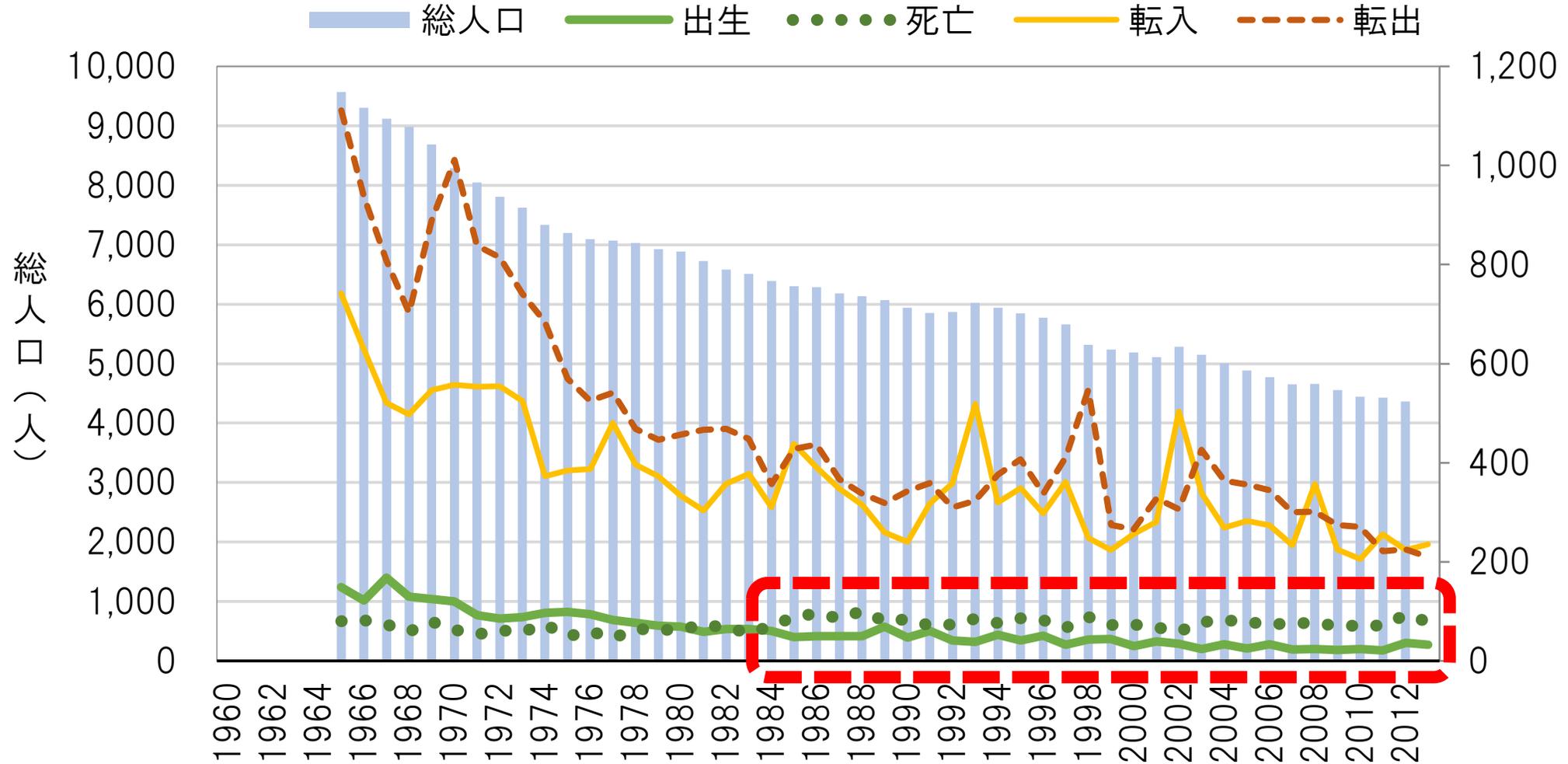
年齢3区分別人口比率



# 人口の自然増減と社会増減

- 1984年ごろまでは、転出超過で人口減少
- それ以降は、死亡 > 出生 (自然減)

出生・死亡数、転入・転出数の推移

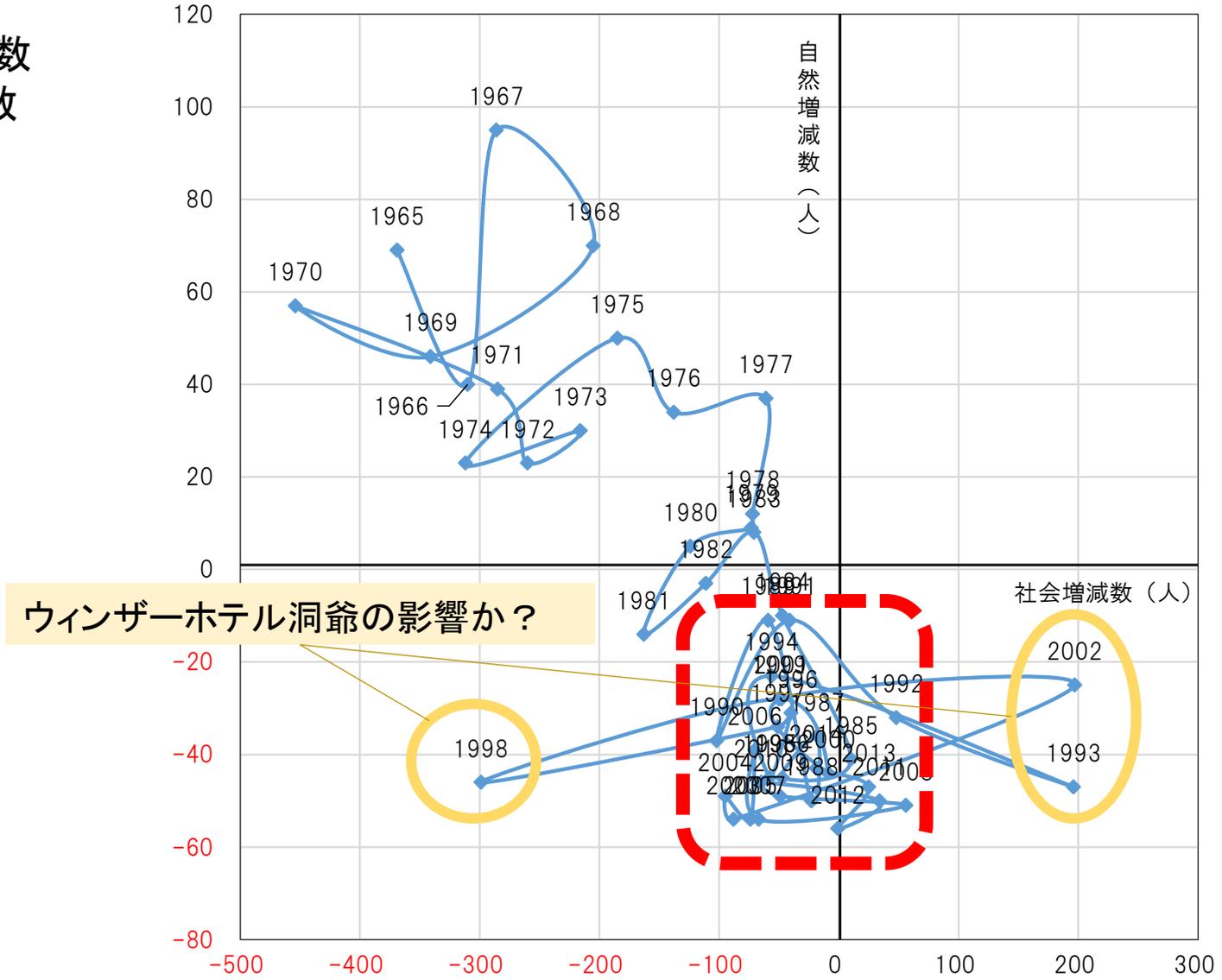


# 人口の自然増減と社会増減

● 現在は、自然減＋社会減の状態にある

自然増減と社会増減の影響

※自然増減＝出生数－死亡数  
社会増減＝転入数－転出数

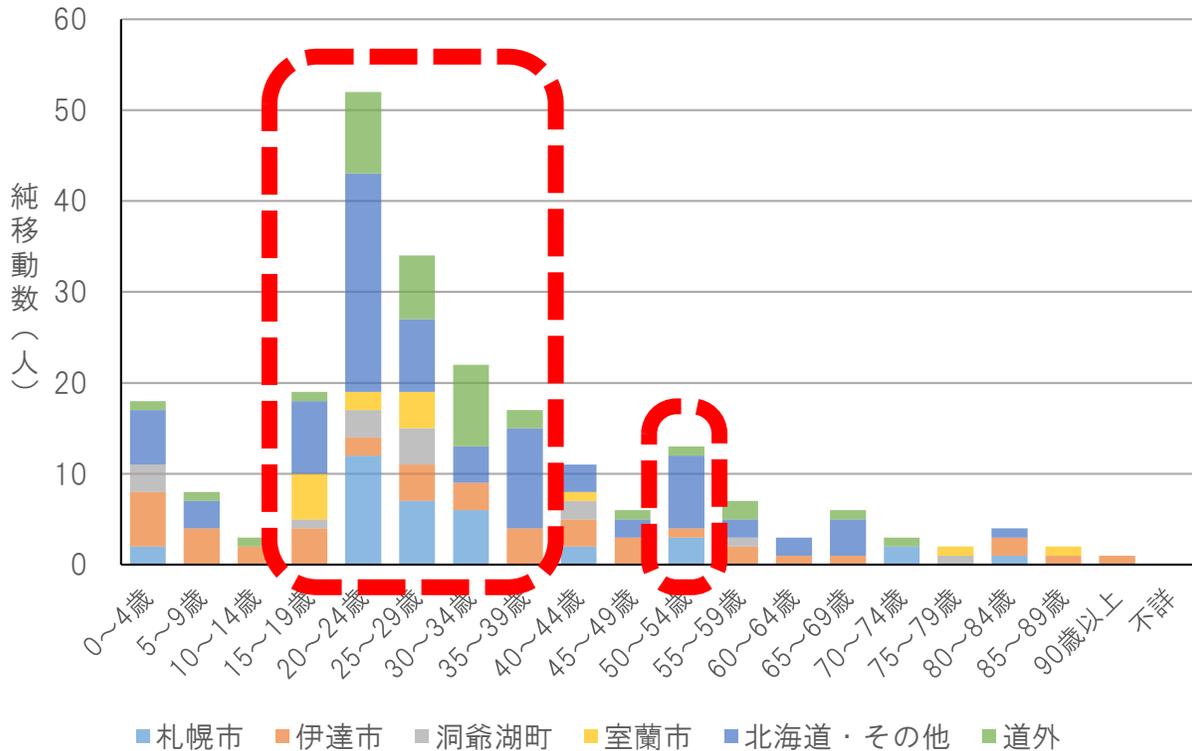


■ 人口の社会増減(転入元/転出先)

● 転入(2013年)

- ✓ 20～30歳代の転入多
- ✓ 50歳代前半の転入もやや多

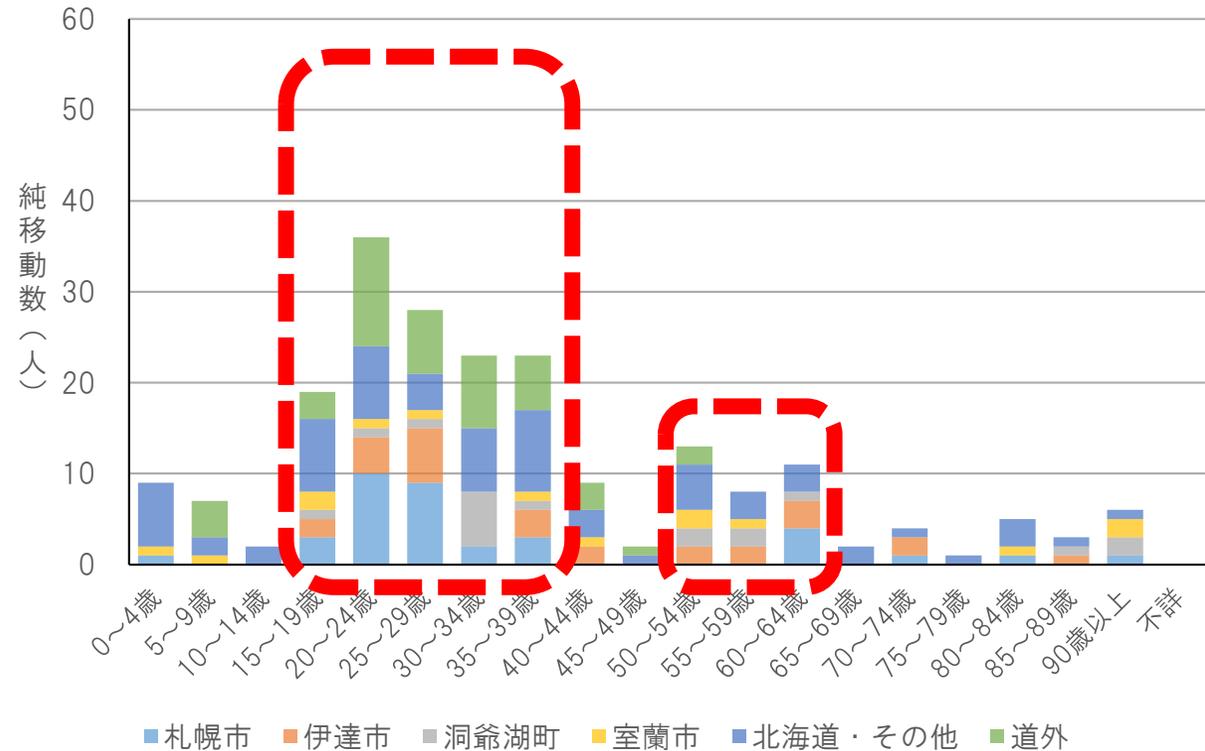
年齢階級別・転入者数(総数、2013年)



● 転出(2013年)

- ✓ 20～30歳代の転出多
- ✓ 50～60歳代の転出もやや多

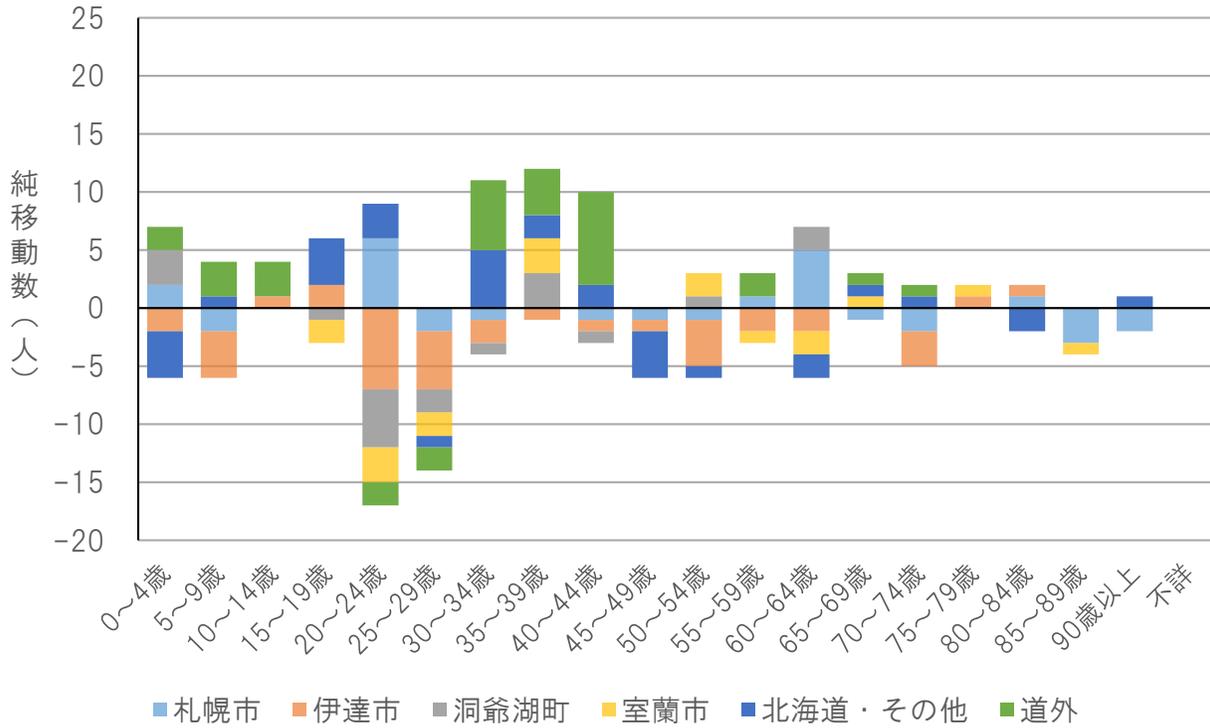
年齢階級別・転出者数(総数、2013年)



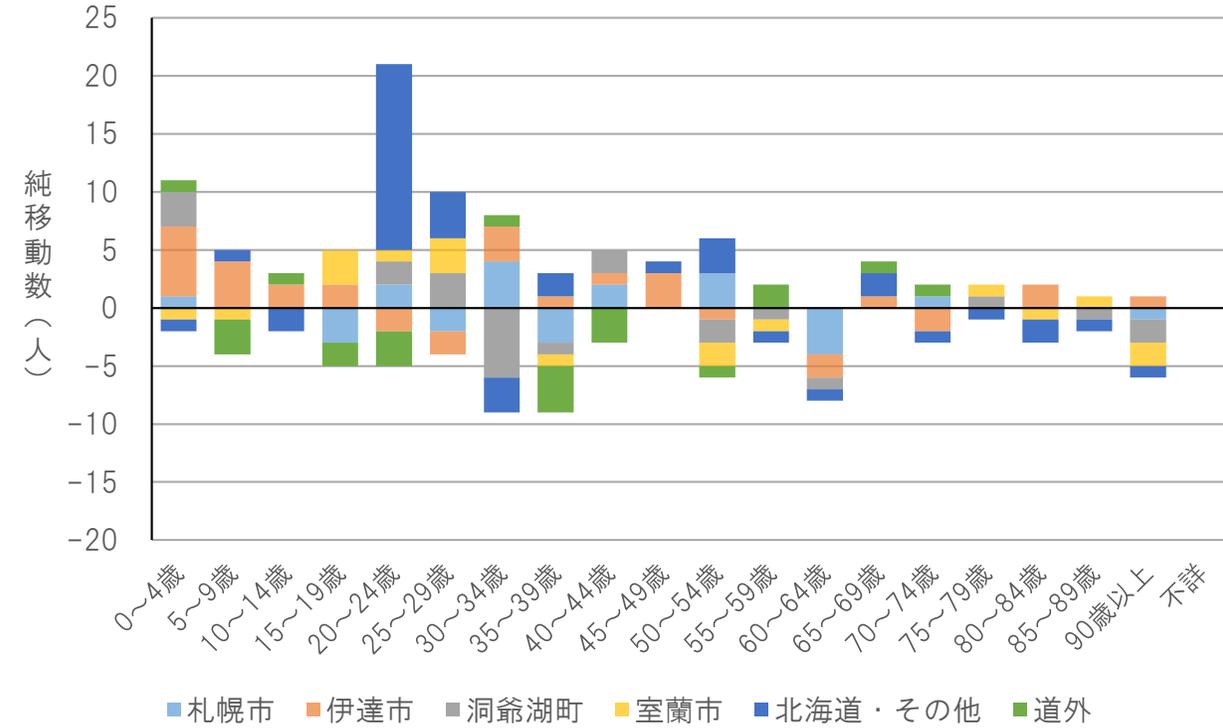
■ 人口の社会増減(純移動)

● 純移動(=転入-転出)(2012、2013年)  
 ✓ 札幌市・伊達市との間での転出入の移動が多い

年齢階級別の純移動数(総数、2012年)



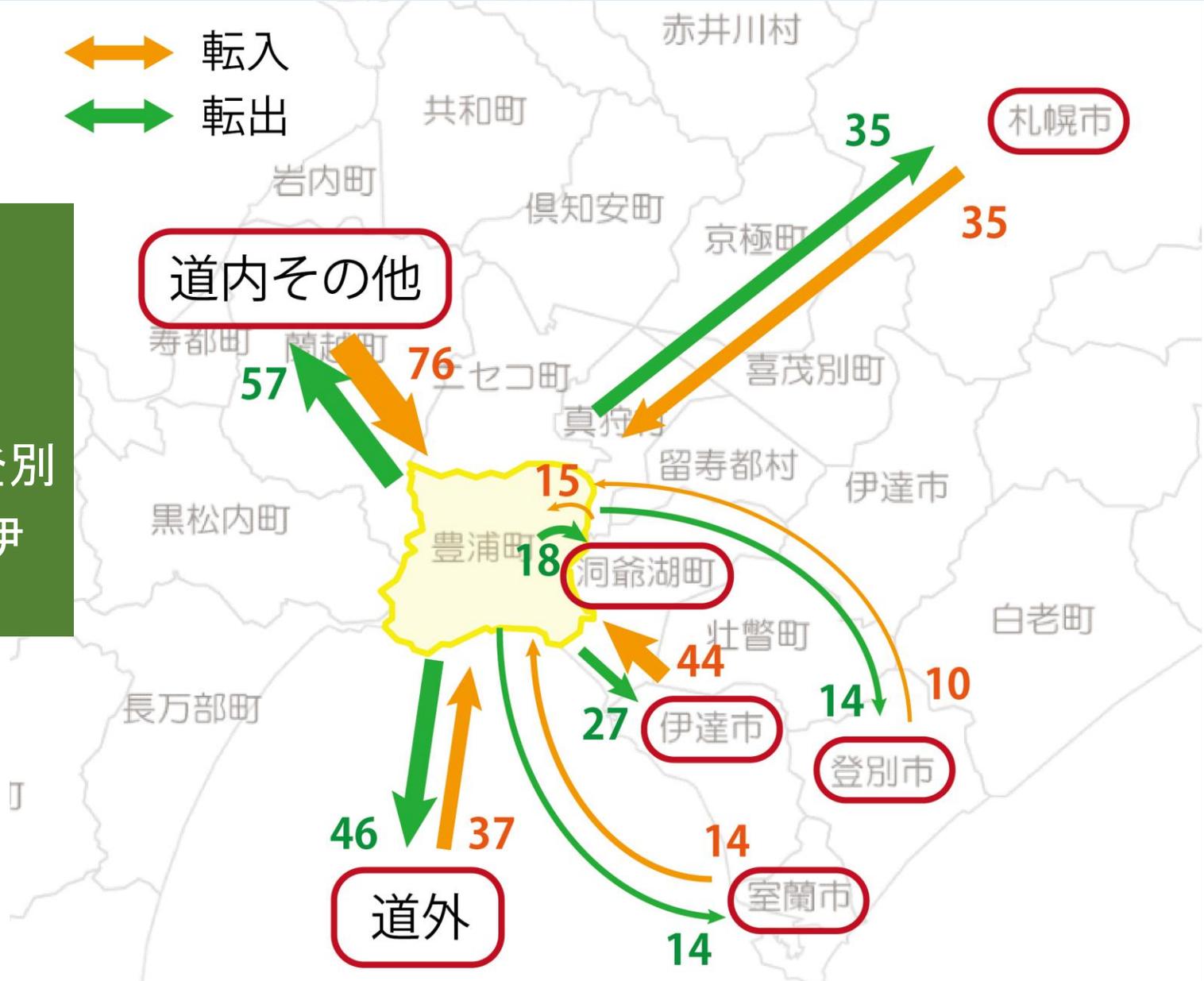
年齢階級別の純移動数(総数、2013年)



# ■ 人口の社会増減(純移動)

● 純移動(2013年)

- ✓ 転出入の多い道内自治体 = 伊達・札幌・洞爺湖
- ・ 室蘭・登別
- ✓ 大きく転入超過しているのは伊達市のみ



※転出・転入共に10名以上の自治体を記載

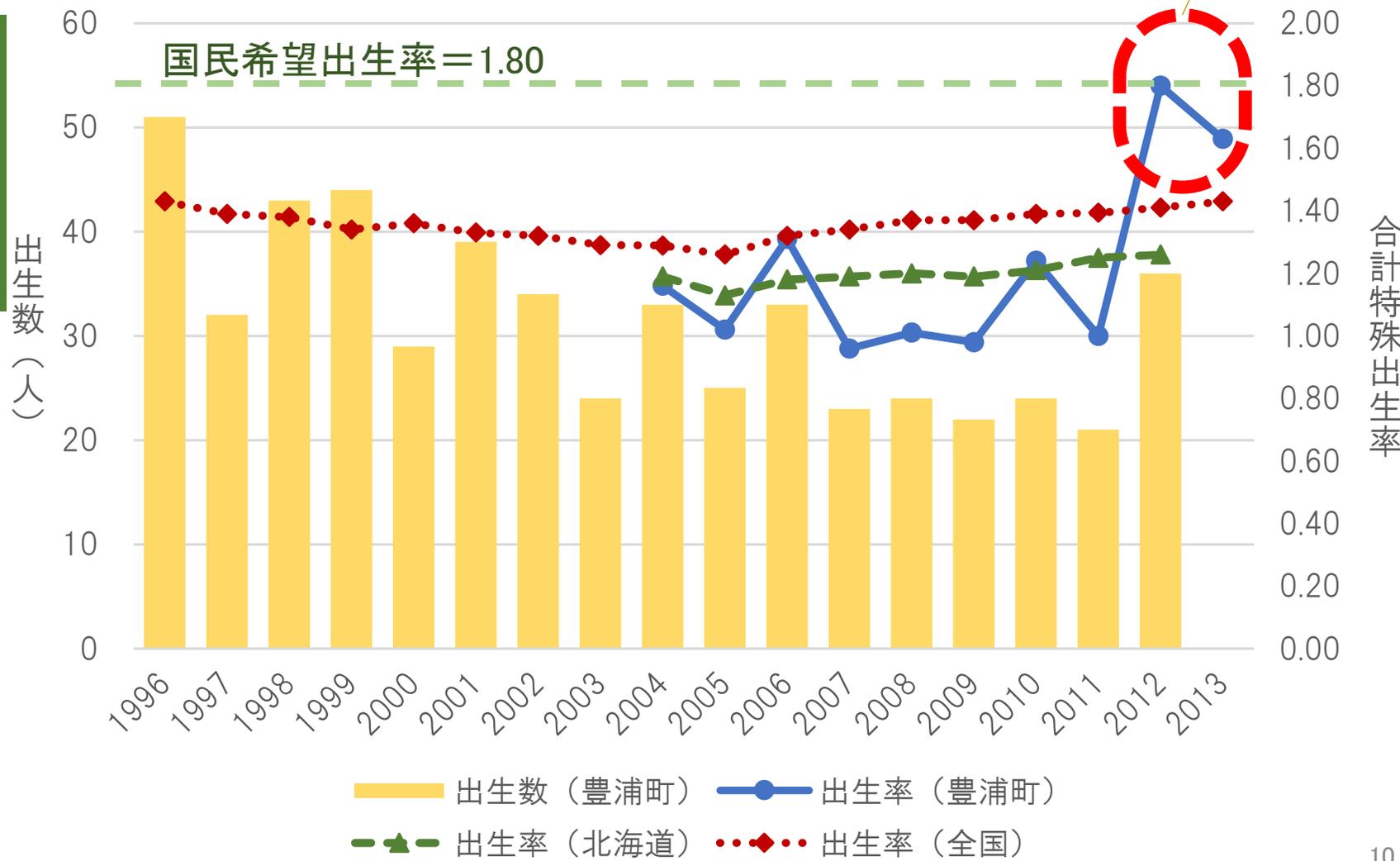
# 人口の自然増減(出生率)

- 人口維持のための出生率は2.07
- 現在の国民希望出生率1.80

- 豊浦町では、
  - ✓ 2004年から、出生率1.00 ~ 1.40
  - ✓ 2012年に1.80に近づく

出生数と合計特殊出生率の推移

子育て施策の効果か



## (2)人口減少等の要因や課題等の洗い出し

—経済指標等各種統計データなどを活用した地域経済状況の分析—

# 豊浦町の産業

## ● 各産業従事者の割合を全国と比べると

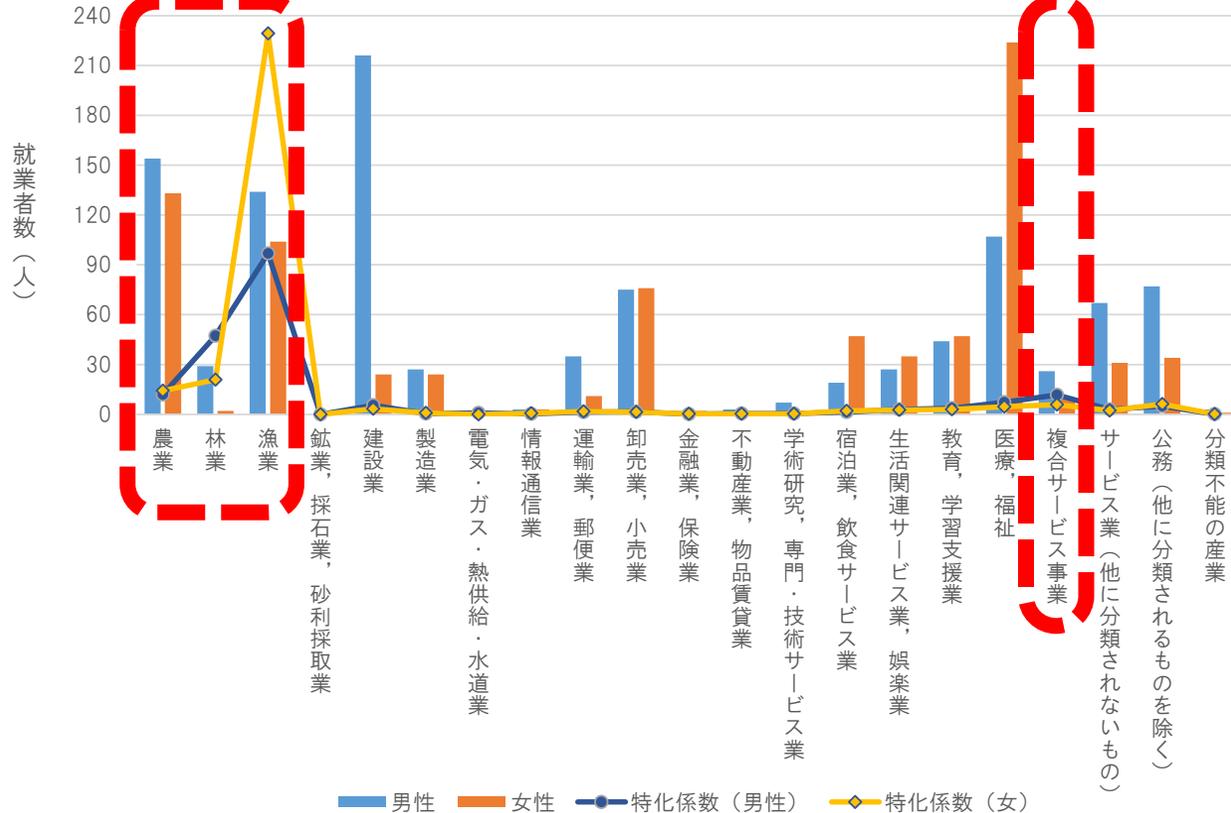
✓ 農林漁業に特化

✓ 複合サービス事業もやや特化

### ※特化係数

(豊浦町のA産業の就業者割合) ÷ (全国のA産業の就業者割合)

男女別・産業別就業者数（従業地による15歳以上就業者数）



年齢階層別・産業別就業者割合（従業地）



60歳以上  
が30%超

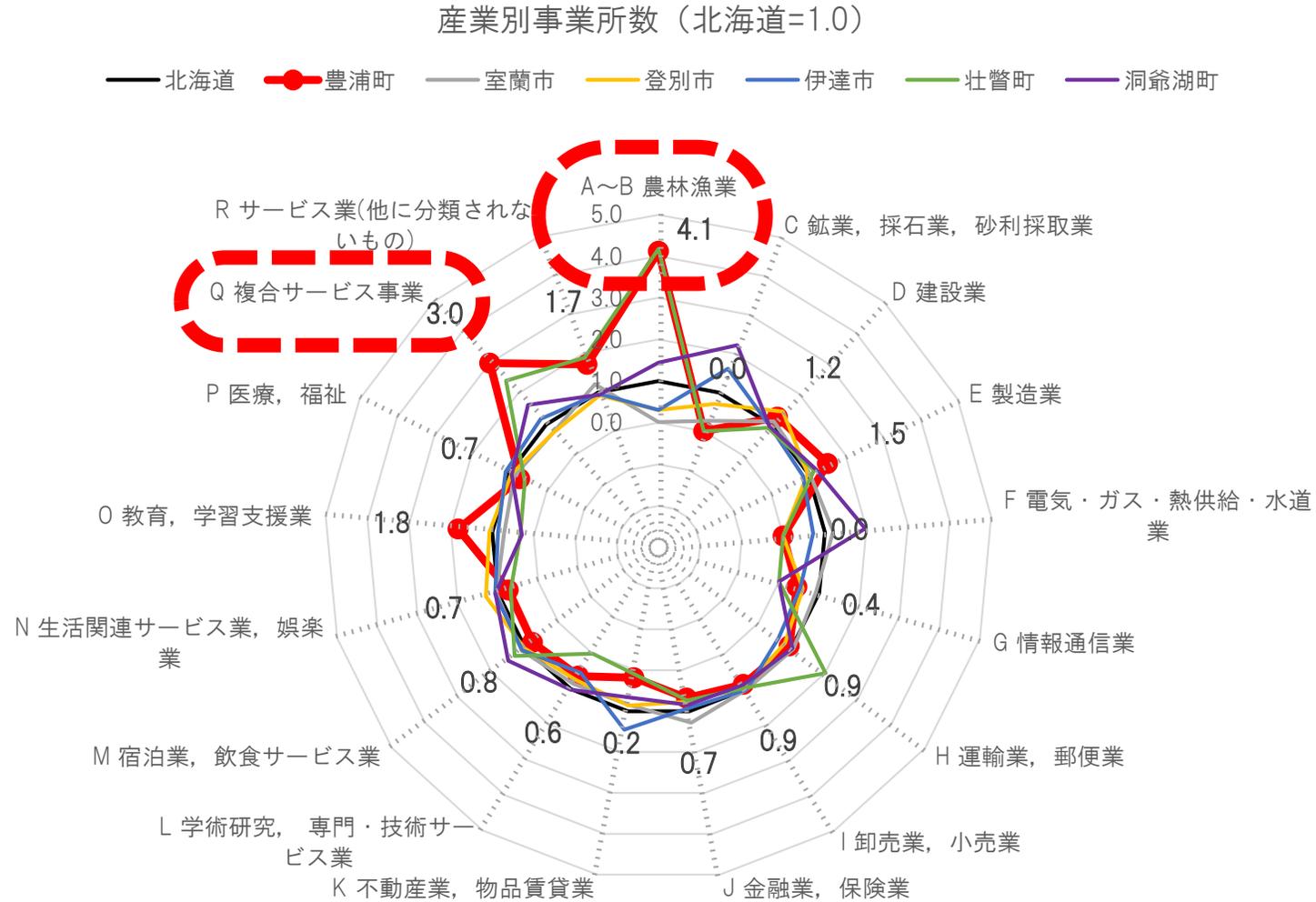
60歳以上  
が30%超

60歳以上  
が50%超

40歳未満が  
40%程度

■ 豊浦町の産業

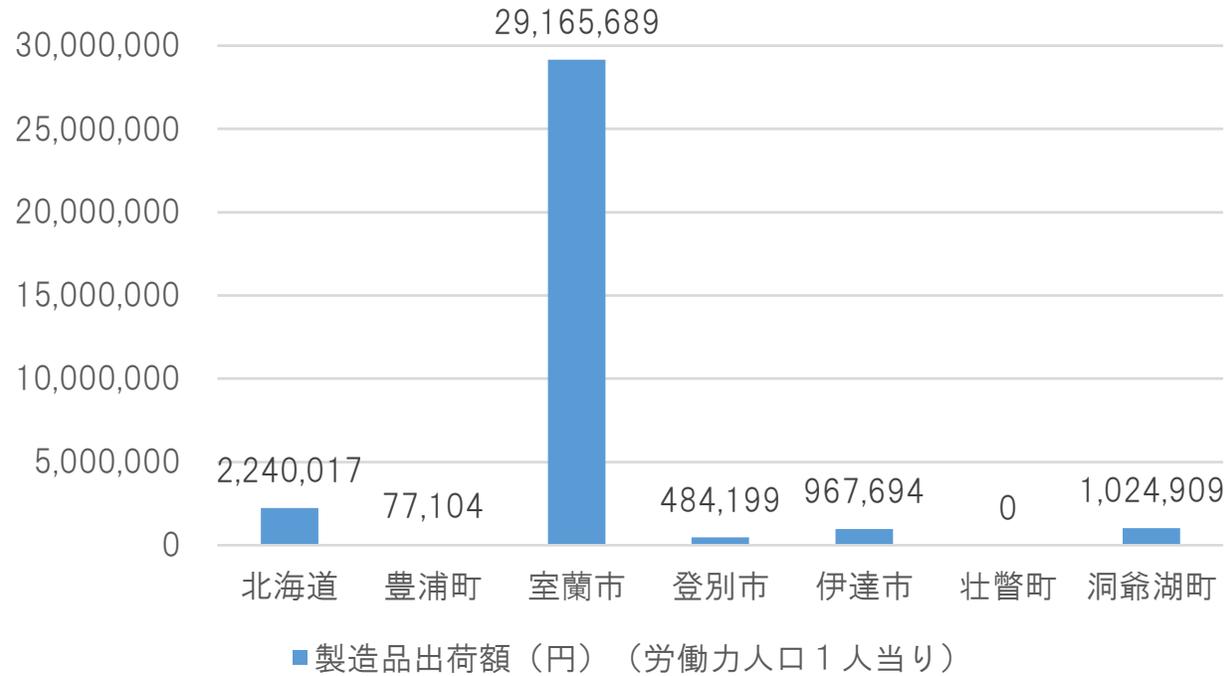
● 各産業事業所の割合を北海道と比べると  
 ✓ やはり、農林漁業、複合サービス事業に特化



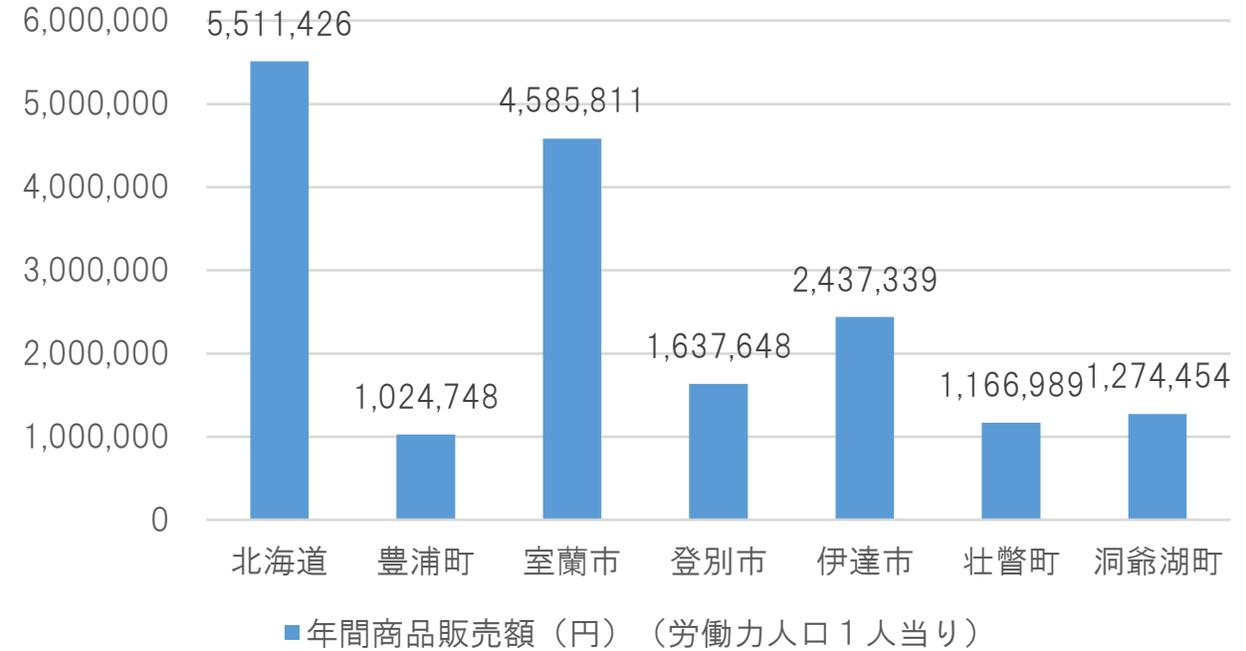
## ■ 豊浦町の産業

- 労働力人口1人当たりの製造品出荷額・商品販売額は、北海道と比べても、西胆振で比べても少ない

製造品出荷額（円）（労働力人口1人当たり）



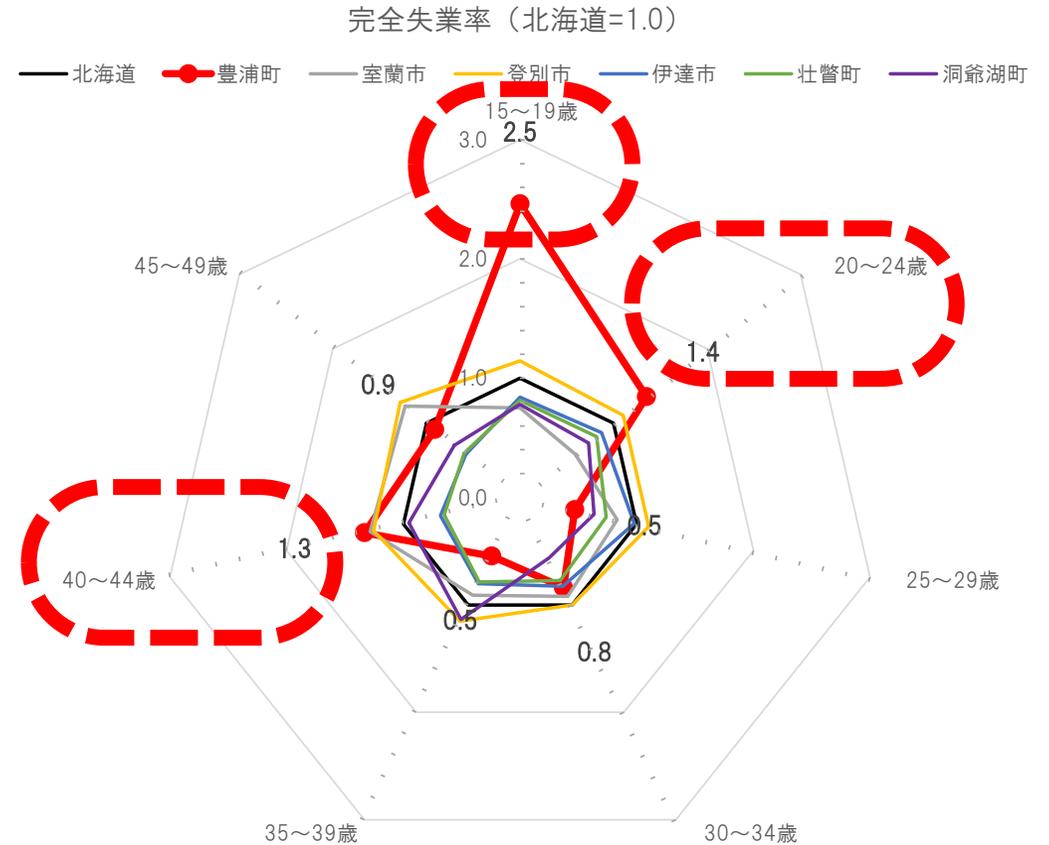
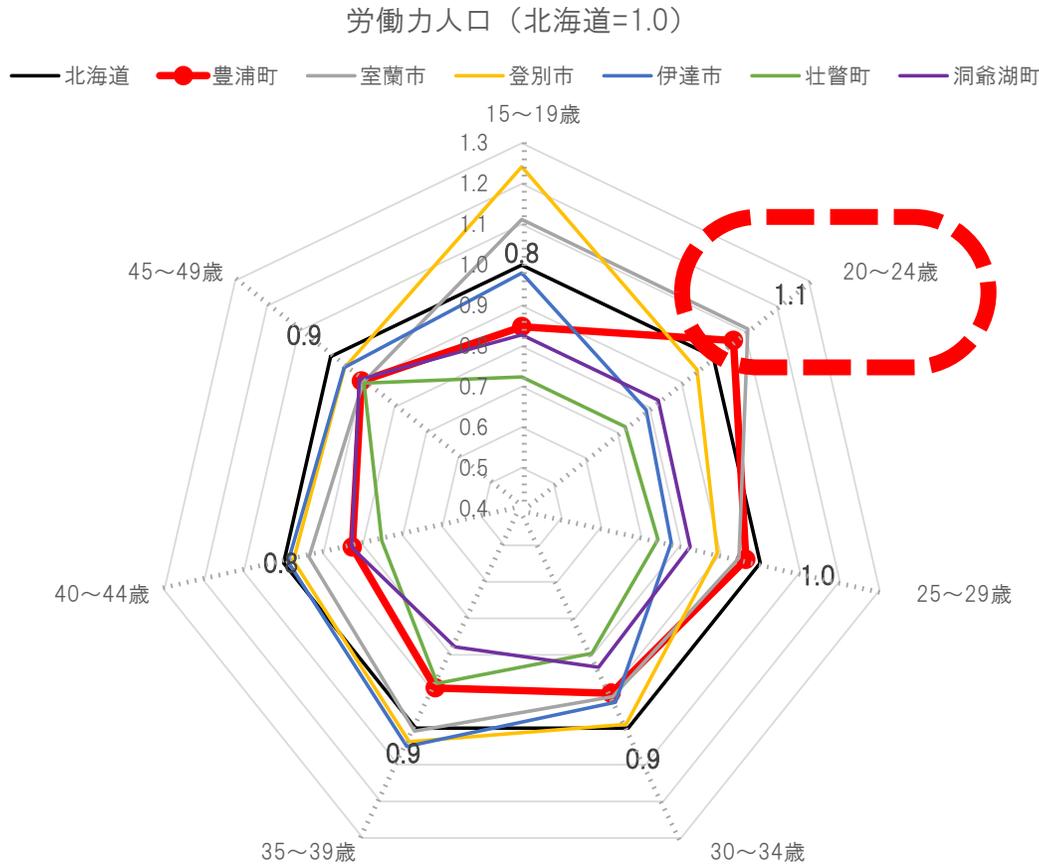
年間商品販売額（円）（労働力人口1人当たり）



豊浦町の産業

- 労働力人口の割合を北海道と比べると
  - ✓ 25歳以上の各年代はやや低め
  - ✓ 20～24歳はやや高め

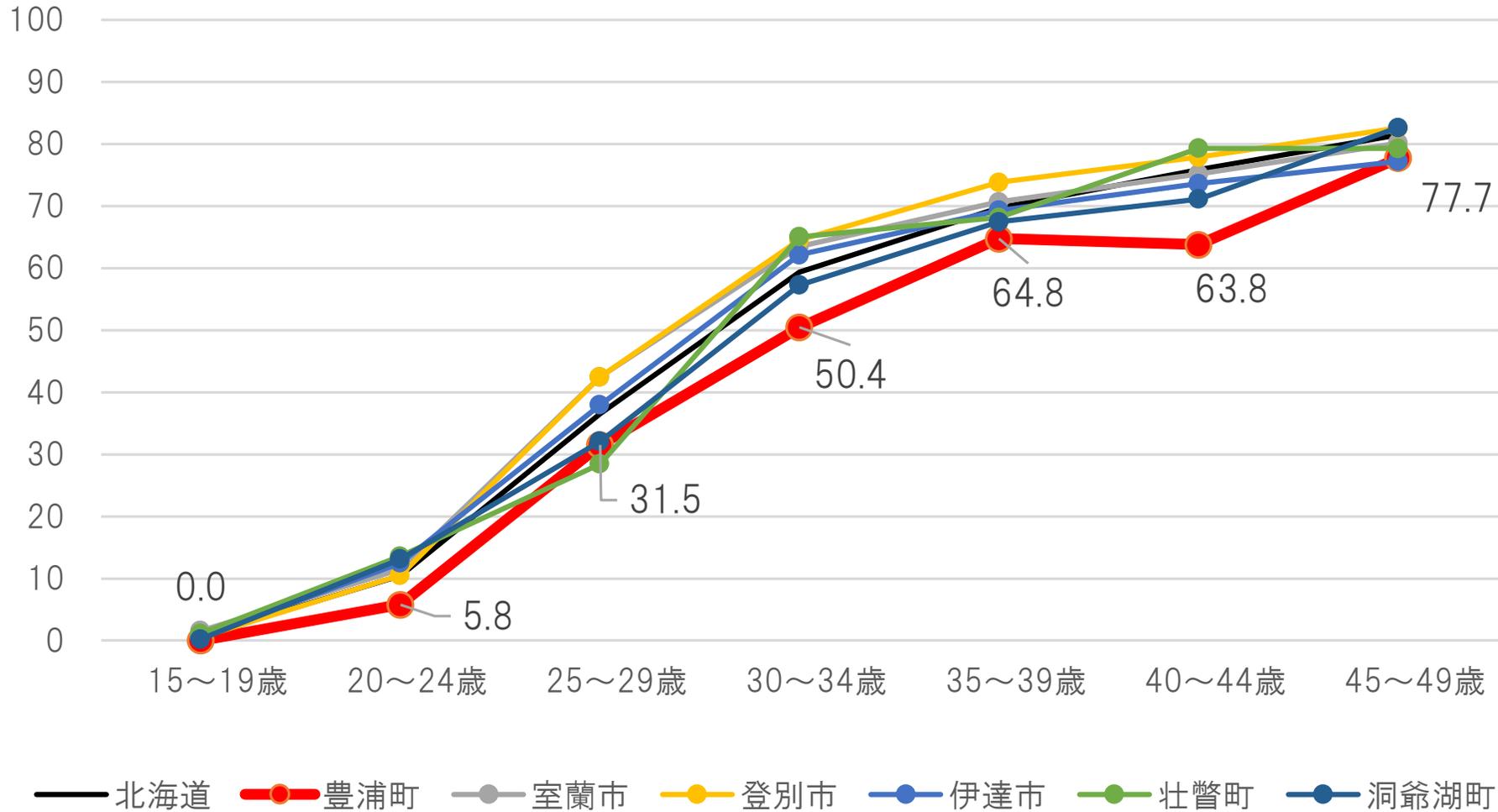
- 完全失業者の割合を北海道と比べると
  - ✓ 15～24歳、40～44歳がやや高め



# 豊浦町の生活環境(婚姻率)

● 婚姻率が西胆振の中でも低い

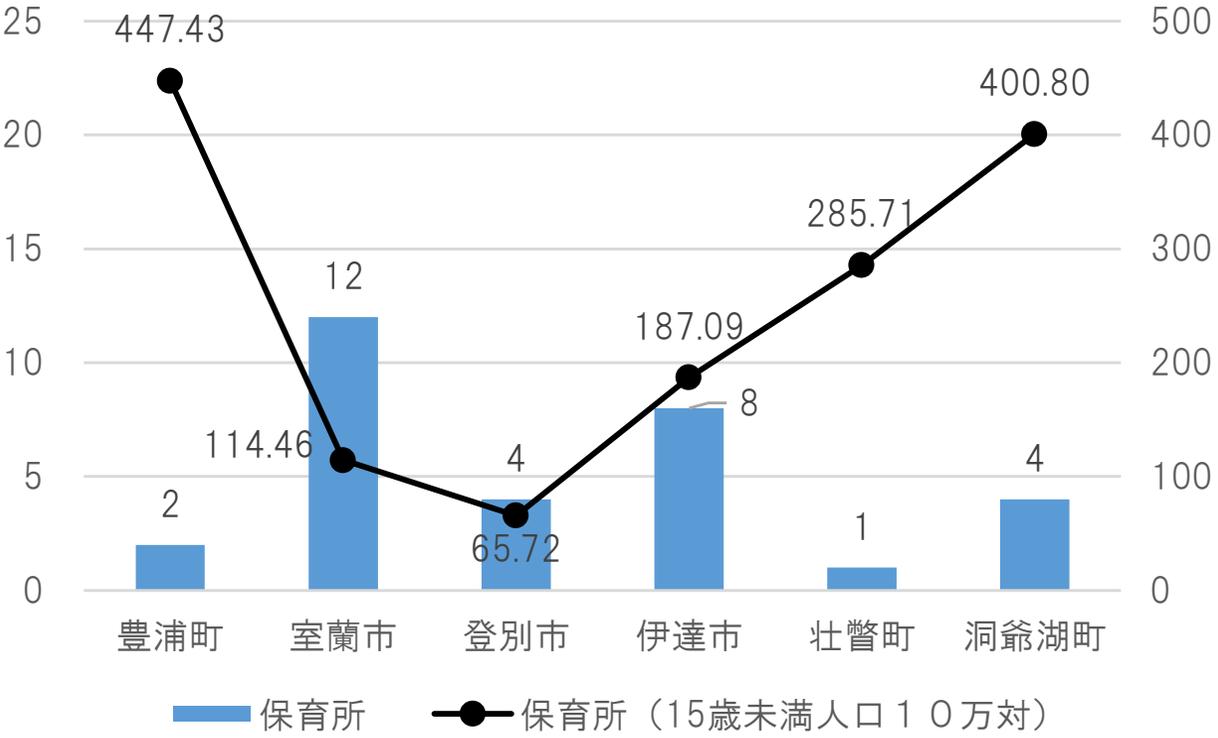
男女・年齢階級別婚姻率（100%-未婚率）



# ■ 豊浦町の生活環境(子育て)

● 10万人当たりの保育所・学校数は、西胆振の中で高い割合(人口が少ない割に施設数がある)

### 保育所



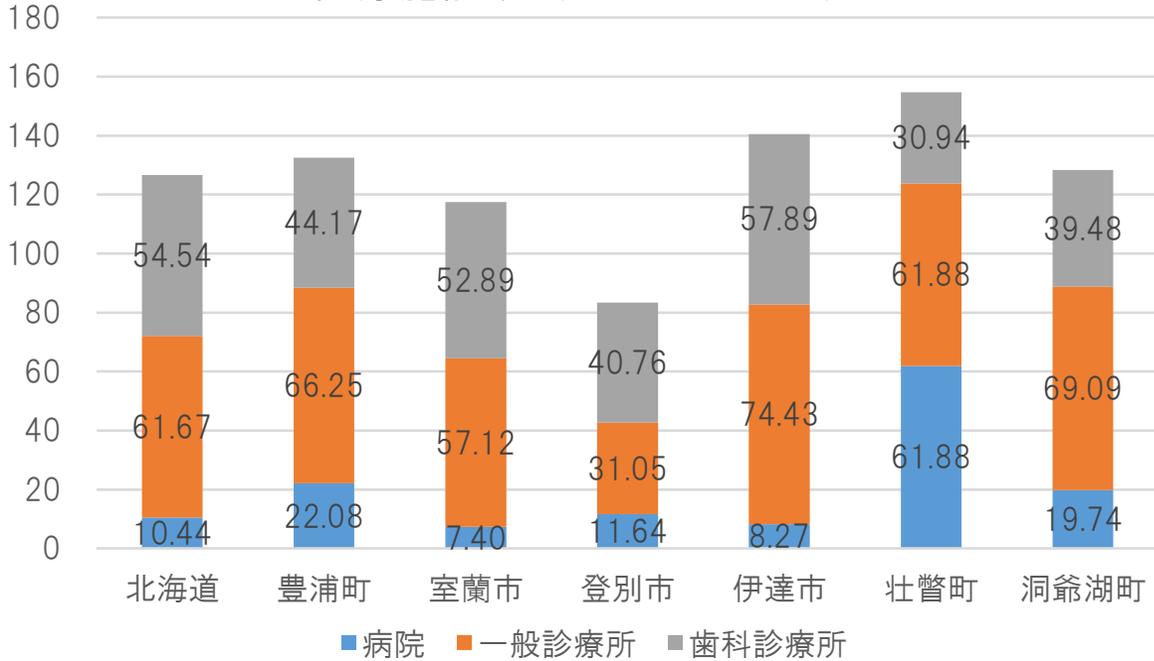
### 学校数 (15歳未満人口10万対)



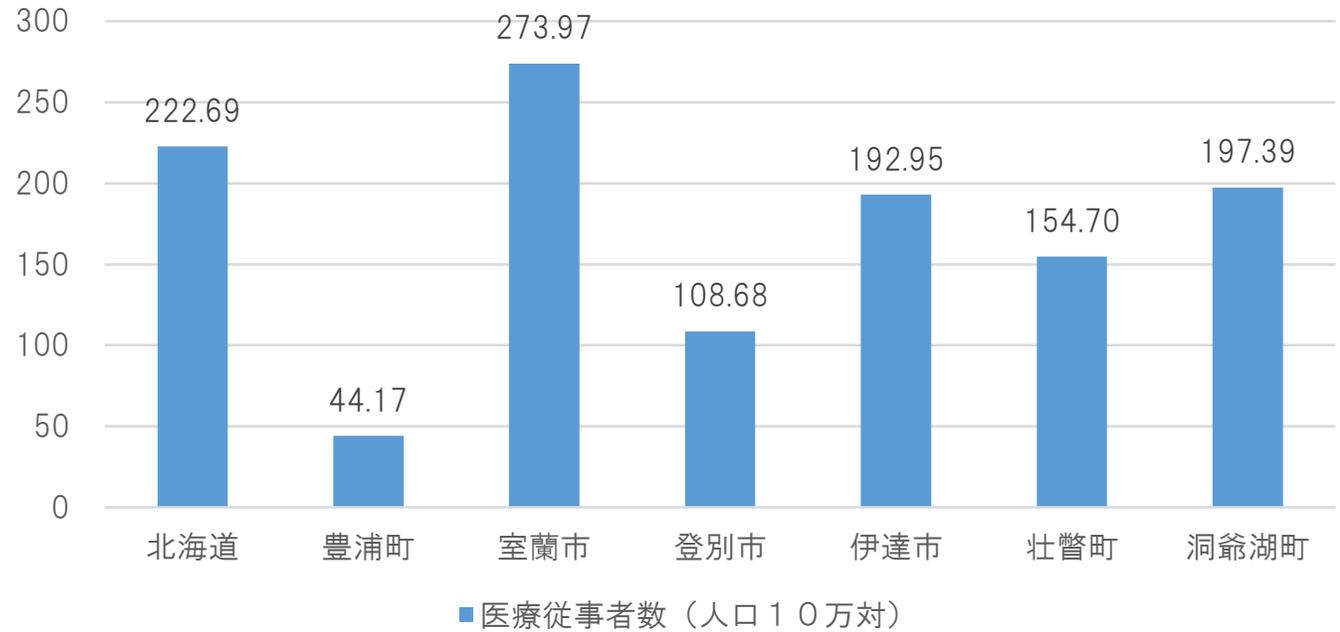
# ■ 豊浦町の生活環境(医療)

- 10万人当たりの医療施設数は平均的
- 一方、10万人当たりの医療従事者数は少ない

医療施設数 (人口10万対)



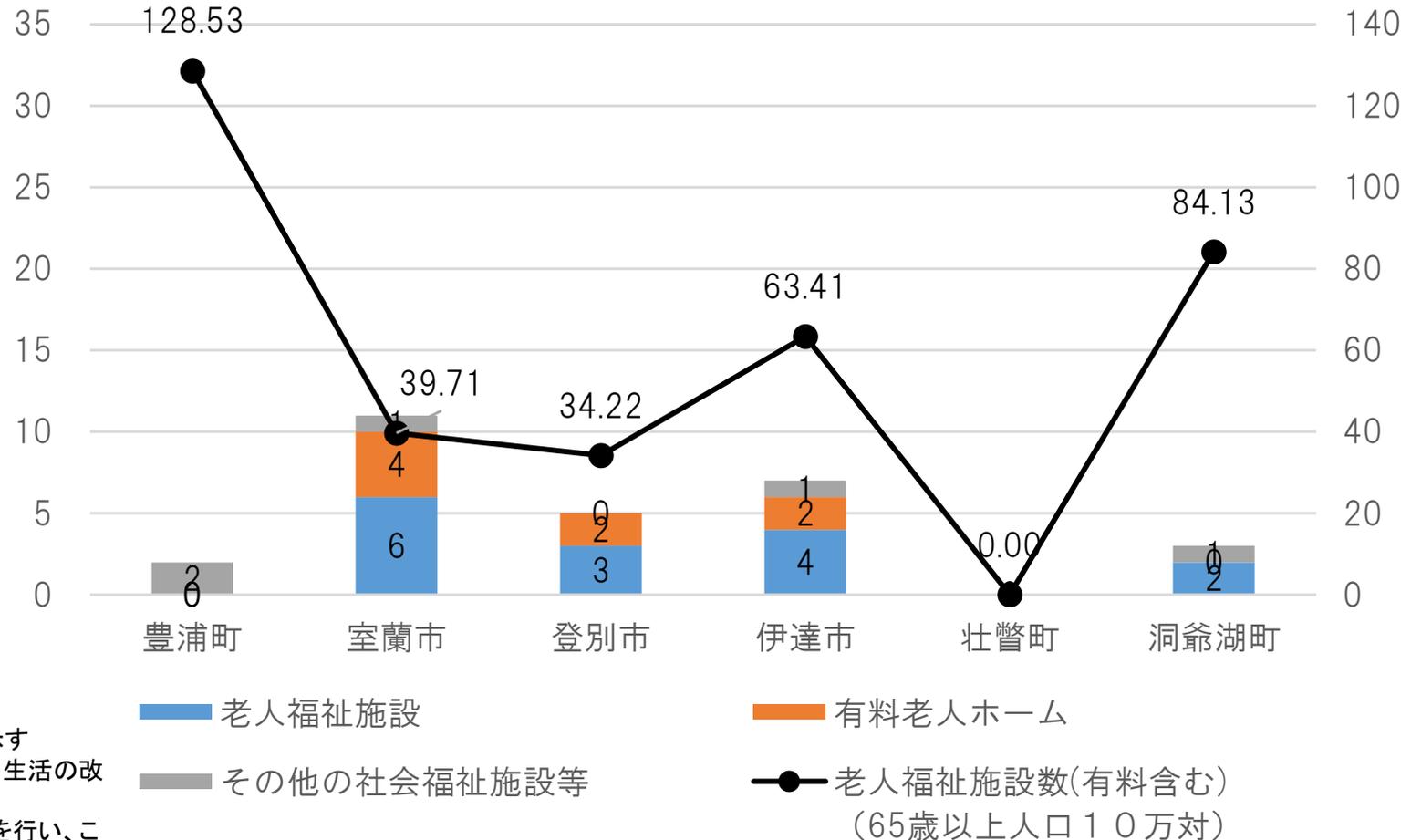
医療従事者数 (人口10万対)



■ 豊浦町の生活環境(老後)

● 10万人当たりの老人福祉施設数は西胆振の中で高い割合  
(人口が少ない割に施設数がある)

老人福祉施設数 (有料含む)

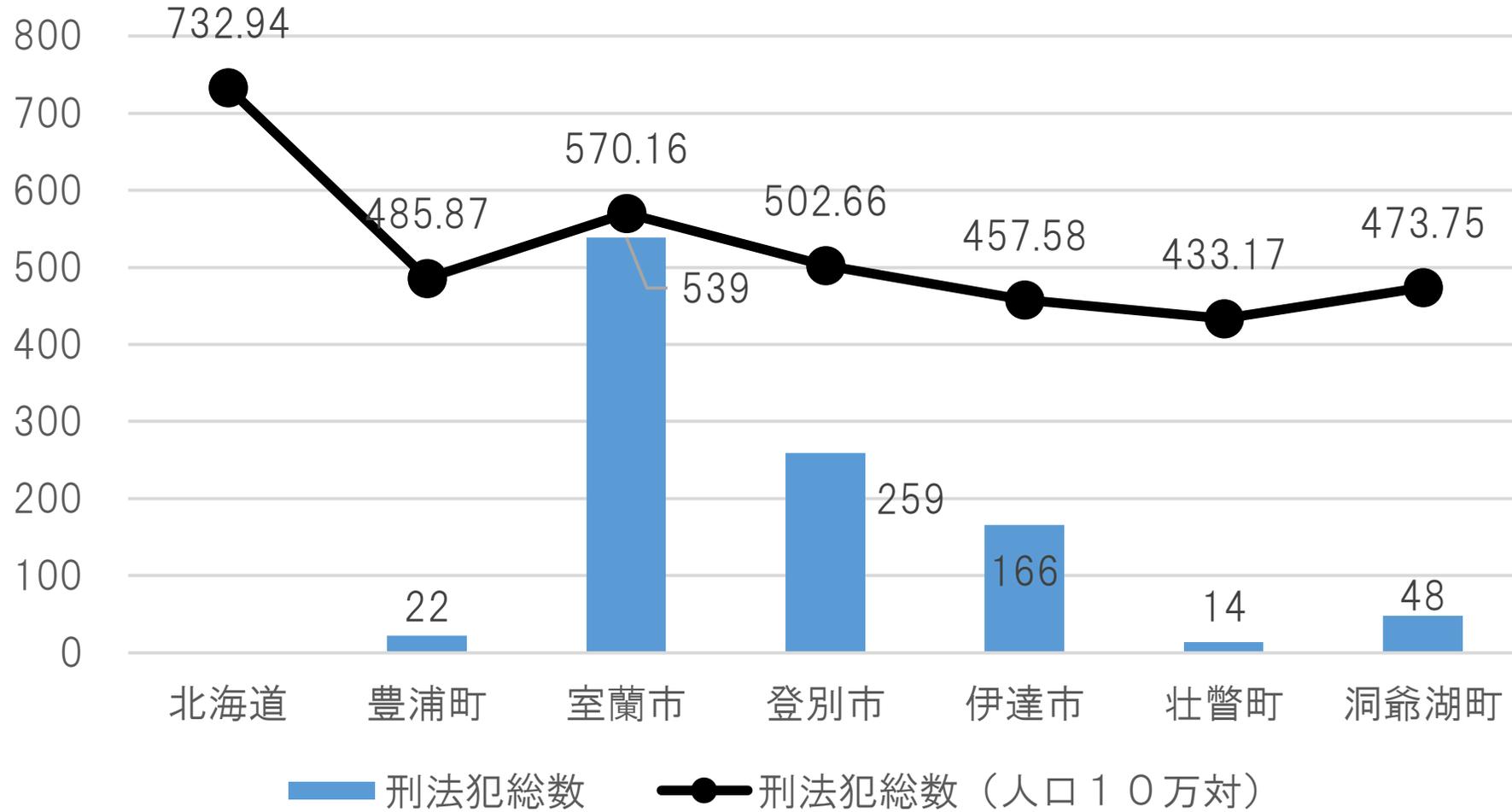


※その他の社会福祉施設等は、「隣保館」と「へき地保健福祉館」の合計を示す  
 隣保館: 無料又は低額な料金で施設を利用させ、近隣地域における住民の生活の改善及び向上を図る施設  
 へき地保健福祉館: へき地における保育を要する児童に対し、必要な保護を行い、これらの児童の福祉の増進を図る施設

■ 豊浦町の生活環境(安心・安全)

● 犯罪率は低め

犯罪発生件数



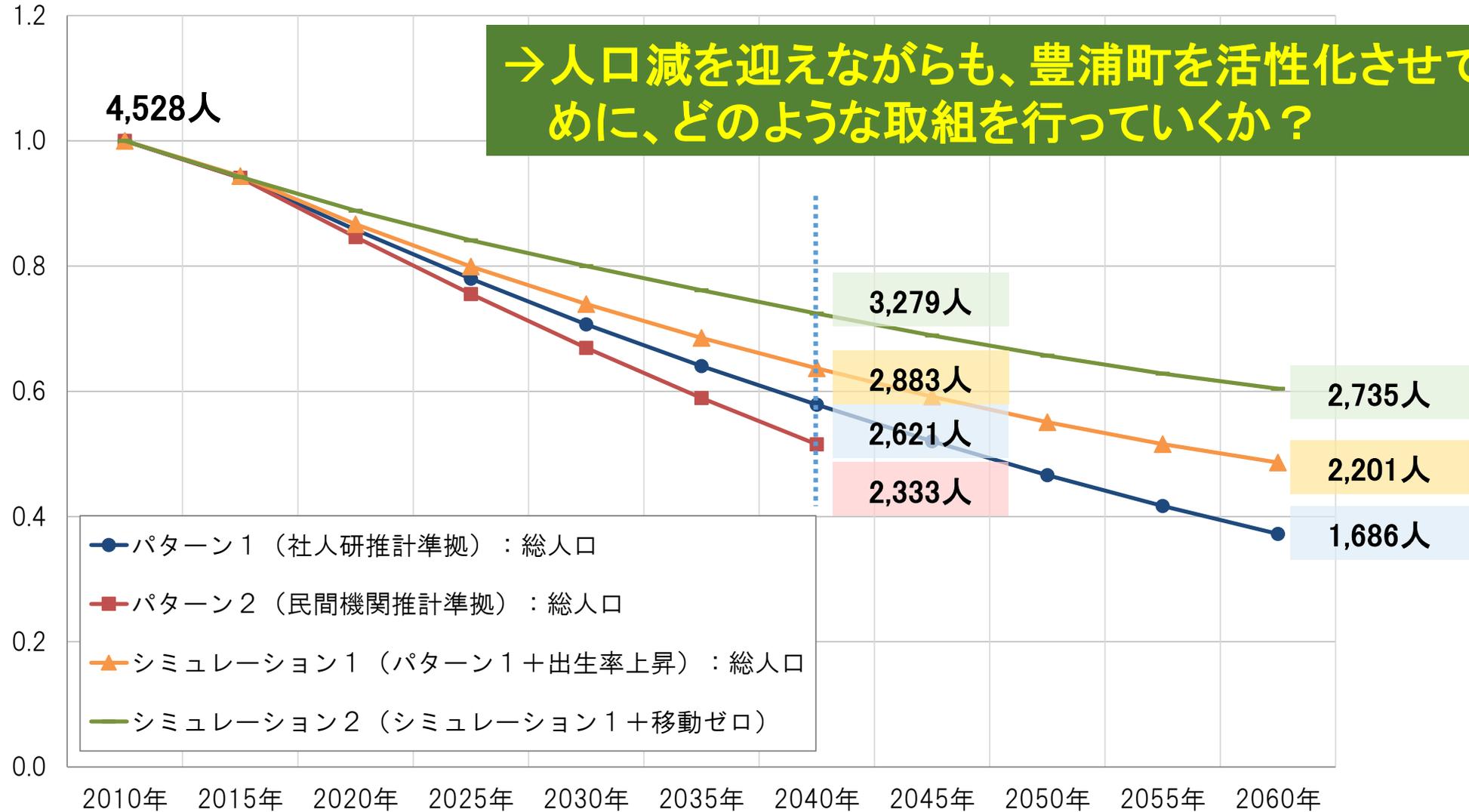
## (3) 将来人口推計

—2060年までを基本として—

# 豊浦町の人口の長期見通し(将来推計)

● 最低の推計値で、30年間で半分に減少

豊浦町の人口の長期的見通し (2010年を1.0とした指数)



## (4) 人口の変化が地域の将来に与える影響

# ■ 人口の変化が地域の将来に与える影響(想定)

## 【参考例】

		人口減少による負の影響のイメージ(参考例)	主要因の想定
大分類	中分類	主な具体の現象	
市民生活	生活環境	● 消防団や自主防災組織など、いざと言う時に地域の防災組織が機能しなくなる。	実働可能な生産年齢人口の減少
		● 空き地や空き家が増え不審火・不審者など地域の治安が悪化する。	総人口の減少
		● 町会・自治会活動など身近な自治活動を維持できなくなる。	高齢者の増加
	健康福祉	● 子育て支援施設の維持が困難になり、居住地の近隣で子育てサービスを受けられなくなる。	少子化、子育て世代の転出
		● 高齢者一人ひとりのニーズに対応した福祉サービスを提供できなくなる。	高齢化率の上昇
		●	
教育文化	● 学校の統廃合が進み、小中学校が地域の拠点として機能しなくなる。	少子化、子育て世代の転出	
	● 郷土芸能や地域文化の継承者が少なくなり途絶えてしまう。	高齢化率の上昇	
	●		
地域経済	経済	● 後継者や人手不足により漁業権の未継承、耕作放棄地や放置林などが増加してしまう。	実働可能な生産年齢人口の減少
		● 小売店の撤退などにより生活の利便性が低下してしまう。	総人口の減少
		● 人手不足により生産力が確保できず、工場や事業所の廃止などに追い込まれてしまう。	実働可能な生産年齢人口の減少
	雇用	●	
		● 求人ニーズと求職ニーズとが一致せず、雇用はあるが働けない人が多く発生する。	実働可能な生産年齢人口の減少
行財政	経営	● 幅広い行政サービスの提供ができず、かつ選択と集中もできず総ての階層から満足を得られなくなる。	少子化、高齢化率の上昇
		●	
	基盤	● 需要に見合った施設サービスを提供できず空間利用の不平等が発生する。	少子化、高齢化率の上昇
		●	